

1年道德通信

第19号

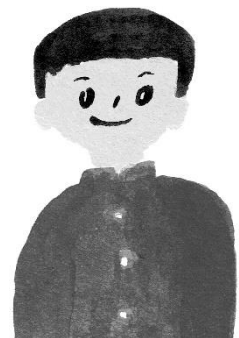
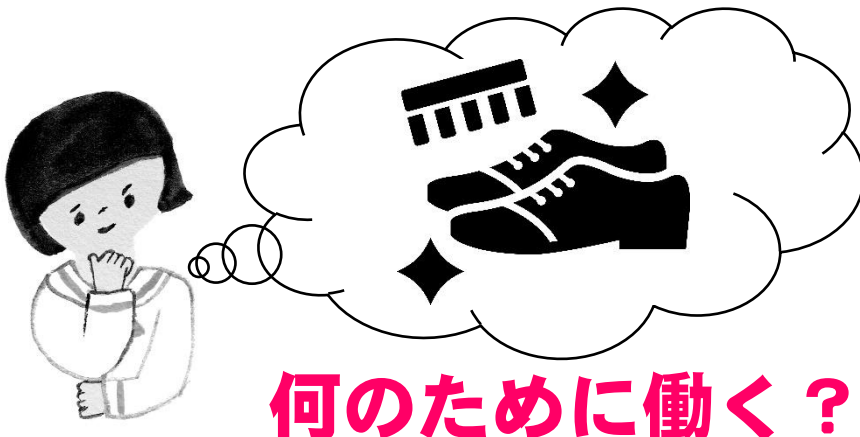
第19回『私が働く理由』

第19回目の道德では、「働く」ということが、人や社会にとってどんな意味をもつのか、二人の働く人の話から考えました。美容師の三田さんは、抗がん剤の副作用で髪の毛が抜けてしまった人専門の美容室を経営されています。つらい思いをしている患者さんの悩みをくみ取って、患者さんたちが自分らしくきれいでいられる社会をつくりたいという思いで働いています。靴磨き職人の大岡さんは、2100円という靴磨きの代金は、信頼が形になったものと考え、大事な約束の前に靴を磨いて気合いを入れないというビジネスマンなどの自分磨きの手伝いをしたいと、仕事に向き合っています。さまざまな職業に就いている人々の仕事への思いや考え方などを知り、働くことの意義や喜びについて考えました。

みんなの意見

人が働く理由とはどのようなものでしょう。また、働くとはどういうことでしょうか。

- ・自分が生きるためもあるけど、それよりも、自分が働くことで誰かが笑顔になったり、明るくなったりしてほしいと考えるから働くのだと思う。
- ・なりたい職業になれているか分からないけど、自分がなった職業に目標を立ててそれを達成したり、やりがいを見つけてそのやりがいのために働く。
- ・お金がもらえるというのはもちろんだけど、どの人も「誰かのために」という気持ちを持っていると思う。
- ・自分が働いてよかったと満足感を得ながら、生活を豊かにするために働いている。
- ・生きるためや自分にしかできない仕事でみんなを笑顔にさせたくて働いている。
- ・人が働く理由は、家族がいる人だったら生活のためや、家族が楽しむことができるなど、誰かのためだと思う。



何のために働く？

仕事を選ぶ時に、何を大切にしていこう？